

全学一斉避難訓練

訓練のねらいとお願い

名古屋大学の各建物は一定以上の耐震性を有しており、一回の地震で倒壊するようなことはありませんが、下の東北大学の被害写真にあるように、速やかに避難しなければならない場合があります。

そこで、今年度は、全学一斉避難訓練を行います。

今年の訓練は、緊急地震速報、地震発生放送、避難開始の順に進めます。

学生は、それぞれの放送の内容に合わせて、地震時の行動をイメージし、教員の指示に従って安全に避難してください。

今回の避難訓練を基に、各建物で、地震時の避難のあり方について検討するための資料を得ることも今回の大きな目的です。

今回の避難訓練でも安全の確保が最も重要ですので、無理をせず安全な避難に心がけてください。



4階建て校舎の4階部分の層崩壊



高層校舎の3階の柱の破壊



2階建て校舎の1階ピロティの柱がせん断破壊



実験室の火災



内開きのドアが開かず、壁を破って侵入した。

東日本大震災における東北大学の被害



実験室内の状況:ドラフトが移動し、実験器具が床を埋める。



重い実験器具も移動する。人がいたら確実に挟まれる。



本棚が倒れてテーブルもつぶれる。

緊急地震速報がでたら

緊急地震速報が出たら何をするかよく考えておく必要があります。10秒を無駄にせずより安全になるように心がけましょう。実験中の場合、本棚に囲まれた研究室にいる場合、階段を上っている場合、エレベーターの中にいる場合などいろいろな場合を想定してみましょう。

3.11の時、東北大学で、緊急地震速報により廊下に避難して助かったとか、避難訓練をしていて本当に良かったという声が多数聞かれました。

地震の揺れが始ったら

地震の揺れが始ったら、落下物に気を付けながら身を守りましょう。東海・東南海地震のような海溝型の地震の場合は、最初「がたがた」と小さな揺れがあってその後大きく揺れるようになります。また揺れる時間も1分から3分ぐらいととても長く揺れます。建物内では、特に上の階ほど大きく揺れるようになります。東北大学の地震被害でも5・6階以上で特にひどくなっていました。

天井落下に注意！

東日本大震災では、震度5強の揺れの地域でも天井が落下する被害が多くありました。東京の九段会館では死者も出ています。比較的新しい建物でも天井落下被害が生じています。

体育館など大空間の中で地震に遭遇した場合は、壁際に寄る、外に出るなどの対応をしましょう。

※写真は2005年の宮城沖地震で被害を受けたスポパーク松森の被災状況(国土交通省の天井落下事故調査報告書から引用)



安全に避難

揺れが収まったら、教員の指示に基づき建物から避難します。急ぐ必要はありません。**お・は・し・も**を守って整然と避難しましょう。

部局、建物で避難経路を決めている場合はそれにしたがって避難してください。

避難路に自衛消防隊が配置されている場合はその指示に従ってください。

お: 押さない
は: 走らない
し: しゃべらない
も: 戻らない

安否情報入力訓練

名古屋大学では「名古屋大学安否確認システム」を開発し、災害発生時に備えています。

災害時の安否確認システムへの入力には全構成員の重要な責務です。

災害時に構成員としての責務が果たせるよう、全員「安否情報入力訓練」を必ず実施してください。

10月20日12:00から、安否確認システムに入力を！！

安否情報入力アドレス
<http://mynu.jp/k/>

